

兵庫県保険医協会 神戸支部研究会

脳梗塞の急性期・慢性期

診断のポイント(仮)

日時 **12月11日**(土)午後2時30分～

会場 兵庫県保険医協会会議室

講師 神戸市立医療センター中央市民病院
神経内科 脳卒中センター医長

山上 宏先生



共催 サノフィ・アベンティス株式会社

お問い合わせは、078-393-1817 難波・田村まで

FAX(078)393-1802 へ(切り取らずに)ご返信ください

神戸支部「脳梗塞の急性期・慢性期 診断ポイント」12/11(土)

研究会に()人参加します。

()区

医療機関名 _____ 参加者氏名 _____

電話 _____

神戸支部の先生方へ

支部ニュースへ投稿のお願い

支部ニュースへの投稿を募集しています。日常の診療にかかわることや、主張などテーマはとれません。医科・歯科連携のアイデアなどお寄せください。

FAX 078-393-1802 電話 078-393-1807

e-mail tamura@doc-net.or.jp

兵庫県保険医協会 神戸支部ニュース

233号

2010年10月25日付

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸770生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会神戸支部 TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

研究会「どうなる!?新中央市民病院」

「安全性」確立した標準医療こそ



PFI方式の是非や個室の増加・病床削減など新病院の問題が明らかに

神戸支部は8月26日に、神戸市の担当職員が話題提供する「出前トーク」を利用し、協会会議室で研究会「どうなる?!新中央市民病院」を開催。神戸市民病院機構・新中央市民病院整備室リーダーの益谷佳幸氏を講師に、14人が集まった。神戸支部副支部長の武村義人先生の感想文を掲載する。

神戸市が医療産業都市としてポートアイランドに医療関連産業の集積を進め、10年以上が経過しました。経済の活性化、雇用の創出、ひいては神戸市の財政の安定化を目指したもので、端的に言えば企業の医薬品開発、医療機器・技術の開発に国

をあげて援助しようというものです。思うようにことが運ばずに、内閣府、厚生労働省、経済産業省、文部科学省などが一体となって特区を設定し、あらゆる面での規制緩和を行い、開発への障害となるハードルを下げ、企業の後押しを行いました。そのなかで先端医療センターが財団法人として、中央市民病院の出店のごとく設立されました。先端医療センターは実験段階の医療を臨床に持ち込むことを目的のひとつとしています。毎年多くの市税が投入されているにもかかわらず、大きな成果は見られていません。

(2面へ続く)

(1面から続く)

またこれらの事業の経過の中で、中央市民病院の機能を利用すべくこの場所への移転計画が一気に持ち上がり、同時に神戸フロンティアメディカルセンター(KFMEC)という生体肝移植等に特化した医療機関の計画も浮上しました。

このような状況に目をつけた民主党政権は、成長戦略に医療を取り込む方針を神戸から発信しました。医療観光、医療ビザという言葉に象徴されるように、国家戦略として「外国人の富裕層をターゲットとした医療ツーリズム」という構想に取り組みもうというのです。

先日中央市民病院について、神戸市の出前トークを行いました。ご存知のように正式には「神戸市立医療センター中央市民病院」と今年から単なる市立でなく、独立行政法人化されています。つまり独立採算と効率性を求めることを要求される立場におかれたのです。

説明の中で医療の特徴として、“先端医

療”という項目がありました。通り一遍の説明で詳しいことはわかりませんが、先端医療センター・KIFMECとの連携であることは想像に難くありません。私たちが市民病院に期待するものは、安全性が確立した標準医療です。決して実験的医療ではありません。加えて指摘するならば、神戸市の予算で中央市民病院とKIFMECとポートライナーの駅をデッキでつなぐという計画も看過することができません。

このことに関して三つの問題を指摘しておきます。ひとつは医療崩壊といわれている今日、自国の国民に充当すべき医療資源を営利目的で使うこと。二つ目は医療制度を破壊するという混合診療の突破口になり、倫理上問題の大きい“移植ツーリズム”の可能性のあること。最後に市民病院がこれらの後方病院として機能させられることなどです。

医療産業都市を抱える神戸の事情は、このように重大かつ深刻な問題を抱えているのです。

【中央区 武村 義人】

健康と医療について語り合う会

脳卒中の予防法をアドバイス

神戸支部も協力する聴覚障害者の医療を考える会(略称:いのちの会)が、9月16日にあすてっぷKOBÉで学習会を開催。脳卒中をテーマに神戸支部副支部長の武村義人先生が講師をつとめ18人が参加した。

武村先生は脳卒中の仕組みをポイントで分かりやすく解説した上で、入院から退院後までの流れや、リハビリを受ける場合の状況などを説明した。武村先生は、脳卒中を防ぐ食生活について、「塩分、甘いもの、肉(とくに脂身)を控えるように」など、具体例を示し、お酒の量も適量以内にしよう指摘した。運動



手話を交えて質疑応答が活発に行われた

は「簡単に始められて、長続きしやすいウォーキングなどがお勧め」と紹介した。

参加者から、「家庭でも使える血圧計が売っているが、血圧は家でも毎日測ったほうがよいか」「脳卒中になったらどんな検査をするのか」などたくさんの質問が寄せられた。

会員懇談会「後悔しない労務管理」

感想文

すぐ実践できる
コミュニケーション学んだ

神戸支部は9月5日に、協会会議室で会員懇談会「後悔しない労務管理～スタッフとの上手な付き合い方～」を開催。社会保険労務士の嶺山洋子氏を講師に18人が参加した。感想文を紹介する。【前号では、大森治先生(中央区)の感想文を掲載】

『経営とは労務管理』との嶺山先生のお言葉に引かれ参加した。当日は体験談やユーモアを交えられてのご講演で大変有意義であった。経営のためにリピートを取る、そのための雰囲気はスタッフが作る、それには労務管理が重要であるということ。医師は医療行為のみでなく専門集団のマネジメント業務を担うことをあらためて認識した。

病院・医院再建のプロは、スタッフの全体の動き・業務全体の流れをまず調査すること。経営の安定にはスタッフ間の良好なコミュニケーションが必須であると感じた。まず医師が自身のコミュニケーション能力を向上させること、そのうえでスタッフが貢献への実感・成長の実感を持って働けるシステム作りをすること。例えば



講演後は経験交流を行った

チェックリストを使った相互評価で問題点を発見、その後成長を確認するという手法の提案があった。また経営理念を明確に伝えることの重要性、協働意識を持ち各々の働きが利益につながっていることを実感できる環境作り、それがすなわち成果を生む体質であることを教わった。次にコミュニケーション法の具体的なお話をいただいた。コミュニケーションとは言葉のキャッチボールで相手が受け取れる球を投げるべきとお話は印象に残った。またほめ方と叱り方、特に相手の行動が変わる叱り方をご指導いただいた。その後の懇談会では参加者からの質問にお答えいただいた。

今回の講演内容はすぐ取り入れられる内容が多く、また今後問題が生じた際には社会労務士の先生に相談させていただくという手段を知り、参加者の皆様が明るい表情で会場を後にされていたのが印象的であった。

【西区 K先生】

開業医の手作り 健康情報 テレホンサービス

【11月テーマ】

☎ 0120 - 979 - 451

- 月曜日 子どものインフルエンザ
- 火曜日 虫歯予防のキシリトールとリカルデントって何?
- 水曜日 椎間板ヘルニア
- 木曜日 高齢者の皮膚のかゆみ
- 金土日 風邪と漢方薬

